

日本アメリカンフットボールの殿堂 新たに 11 名が殿堂入り

日本アメリカンフットボール協会は、2015 年 12 月 15 日、日本アメリカンフットボール殿堂に顕彰される 11 名を発表いたしました。

これまでに 14 名の方が殿堂入りされていますが、2016 年 1 月に新たに 11 名の方が殿堂入りされます。

第 3 回顕彰者として殿堂入りされる 11 名は以下の通りです。

日本アメリカンフットボール協会は、財団法人キープ協会に施設の運営管理を委託し、日本アメリカンフットボールの父ポール・ラッシュゆかりの地・清里高原にあるポール・ラッシュ記念館内に、日本アメリカンフットボールの殿堂を 1996 年にオープンしました。

加納 克亮（かのう・かつすけ）

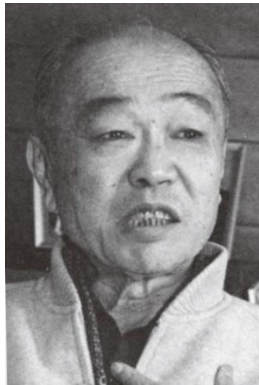


1903～1971 年

朝日新聞運動部記者／東京学生連盟理事／関東協会理事長

立教大学在学中はラグビー部の主将。朝日新聞入社後、運動部記者としてアメリカンフットボール担当。東京学生米式蹴球連盟設立に理事として参加。記者として紙面を通じ競技の紹介を幅広く実施、アメリカンフットボールがスポーツ界で一定の地位を占めることに貢献。朝日新聞社の 1935 年の全米選抜チーム招請と翌年の全日本選抜チームの米国遠征を推進。1946 年、リーグ復興のための関東連盟創立委員会委員長に就任。以降 3 年間、関東連盟理事長。没後の 1972 年、永年の功績により、ライスボウル東西学生選抜戦に加納杯が制定される。

花岡 惇（はなおか・じゅん）



1912 年～没年不詳

明治大学監督／東京学生連盟役員

ハワイ生まれ日系 2 世。明治大学入学後、部創設の中心的役割。1934 年、我国最初の公式試合に出場し、その後もオールスター級の活躍。卒業後、連盟役員、監督として継続的に活動。1940 年代、同志社、関西大学を指導。1947 年から 1962 年まで 16 年間、監督として明治大学を率いる。同時に 1949 年よりライスボウル東西学生選抜戦の監督として 10 数年活動する。米国からの最新情報と戦術を我国に広く紹介するとともに、ライスボウルで交流した各大学コーチに伝え、フットボールの本質を広めることに貢献する。

三隅 珠一（みすみ・しゅいち）



1924～1975 年

日本タッチフットボール連盟／日本協会

1945 年、旧制大阪府立池田中学校に体育教官として着任。タッチフットボール部顧問として、チーム育成に尽力。同年、日本最初の公式タッチフットボール試合を開催。甲子園ボウルで、東西タッチフットボール王座決定戦を実施。1954 年、全国高校タッチフットボール大会開始、1970 年、全国高校アメリカンフットボール大会開始と高校フットボールの組織づくり、公式規則書の制定、翻訳等の作業実施に尽力され、日本の高校フットボールの普及・発展に貢献。永年の功績により、クリスマスボウル全国高校選手権の最優秀ボックスに三隅杯が制定される。

樋口 廣太郎（ひぐち・ひろたろう）

1926～2012年



アサヒビール株式会社名誉顧問／日本協会初代コミッショナー

1986年、アサヒビール株式会社代表取締役社長に就任。1988年以降、社会人クラブチーム「シルバースター」を後援し、多年に亘りチームをスポンサード。財界人として、日本フットボール界に様々な支援や普及貢献活動を行い、アメリカンフットボールの文化を、広く一般社会に発信してその価値を広報した。その後、日本アメリカンフットボール協会の初代コミッショナーに就任。協会活性化に取り組み、アメリカンフットボールの普及振興に大いなる支えとなり、貢献した。2012年、旭日大綬章受章。

※日本アメリカンフットボール協会の公益社団法人化に伴い、現在コミッショナー制は廃止

藤村 重美（ふじむら・しげみ）

1931～2007年



市立西宮高等学校監督／兵庫県高等学校体育連盟初代理事長／京都大学監督

京都大学在学中は選手として活躍。卒業後、市立西宮高等学校の教壇に立ち、タッチフットボール部を創部指導。創部5年目の1962年、関西学院高等部の連勝記録（204連勝）を阻み、その後、2年連続全国制覇を果たす。その傍ら、1958年、兵庫県高等学校体育連盟にアメリカンフットボール競技が加盟するとともに同連盟の初代委員長として組織の礎を築く。高校フットボールがタッチフットボールからアメリカンフットボールへと移行する過程で、日本の高校フットボールの牽引者として普及に貢献。また、1965年京都大学監督に就任、京大フットボールのバックボーンを築いた。

武田 建（たけだ・けん）

1932年～現在



関西学院大学監督／関西学院高等部監督

関西学院高等部よりフットボールを始め、1950年より4年間QBとして甲子園ボウルに出場、優勝2回。卒業後、北米留学で得た最新戦術を日本に紹介し、日本フットボールの近代化及び発展に貢献。1966年から関西学院大学のヘッドコーチ・監督として11年間指導し、その間に7回の甲子園ボウル優勝、5連覇に導く。1980年からは高等部監督として、6回全国制覇を果たした。1970年代より本場フットボールのTV解説や入門書刊行により、一般への普及、競技者・ファンの拡大に繋げた。心理学者としてもチーム運営・指導方針を理論的に解き明かし、多数の書籍を出版、日本スポーツ界の健全な発展に寄与した。

笹田 英次（ささだ・えいじ）



1934年～現在

国際アメリカンフットボール連盟初代会長／日本フラッグフットボール連盟理事長

都立西高等学校でタッチフットボールを始め、日本大学で活躍。1956年、日本アメリカンフットボール審判協会関東審判部に参加、1960年から運営を担当し、競技規則の制定、審判員の技術力向上に寄与。米国等海外組織との交流を推進し、1999年、国際アメリカンフットボール連盟設立時に初代会長に就任。同年の第1回ワールドカップの開催と成功した運営に貢献。その後、日本フラッグフットボール連盟理事長を務めるなど、小中高、大学、社会人と普及に幅広く活動する。

水田 吉春（みづた・よしはる）



1937～2004年

日本審判協会・関東審判部長／日本協会常務理事／日本学生協会理事長／関東大学連盟理事長

麻布高等学校でタッチフットボールを始め、立教大学で活躍。1961年に日本アメリカンフットボール審判協会関東審判部に入部。1972年、同審判部副部長、1976年、同部長に就任。発展する競技活動に対応する審判活動の組織化に貢献。公式規則の制定、公式規則書の発行を推進する。1991年、関東大学アメリカンフットボール連盟理事長に就任。大組織の運営を指揮し、円滑な競技運営を推進するとともに、試合会場の確保、各種講習会の実施等、競技活動、運営に活躍。また日本アメリカンフットボール協会常務理事、日本学生アメリカンフットボール協会理事長として、全国レベルでの普及に寄与する。

水野 彌一（みずの・やいち）



1940年～現在

京都大学監督／第1回世界大学選手権・日本代表チーム監督

1959年、防衛大学校に入学しアメリカンフットボール部に入部。1961年、京都大学入学、ガードとして活躍し、卒業後、コーチ就任。1980年監督就任後、関西学生リーグ優勝10回、甲子園ボウル優勝6回（出場8回）、ライスボウル優勝4回（出場6回）を成し遂げた（2011年勇退）。関西学院大学との対戦は、数々の名勝負を繰り広げ、アマチュアスポーツのビッグイベントとなり、国立大学全国制覇で全国的な注目を集め、普及・発展に貢献。また、2001年京都市教育委員に就任、その後、教育委員長となり、教育行政にも寄与した。2014年、第1回世界大学選手権・日本代表監督就任（準優勝）。

阿部 敏彰（あべ・としあき）



1941年～現在

アサヒビールシルバースター監督／世界選手権・第1～3回日本代表チーム監督

日本大学在学中は選手として活躍し、4年生時、主将として甲子園ボウル3連覇に導く。1970年、社会人クラブチーム「シルバースター」創部、監督就任。1988年、アサヒビール株式会社とスポンサー契約締結後、1989年、クラブチームとして初の社会人王座獲得。その後、ライスボウル優勝3回、社会人フットボールを代表するチームに発展させた。1998年、日本代表監督として、ジャパンユーロボウル快勝、翌年から始まった第1回ワールドカップも、2007年第3回川崎大会まで、代表監督として指導・育成に貢献（第1・2回：優勝、第3回：準優勝）。また、1978年、地域のフットボール普及を目的に横浜アメリカンフットボール協会創設。

棚橋 寛衛門（たなはし・かんえもん）



1947～2005年

日本社会人協会理事長

1966年、東海大学入学、アメリカンフットボール部創部メンバーの一人として活躍。1975年、社会人クラブチーム「シルバーオックス」創部。東日本社会人アメリカンフットボール協会に所属し、東日本実業団連盟との統一及び西日本社会人連盟とを統一するために東西社会人の取りまとめ役として尽力し、1985年、日本社会人アメリカンフットボール協会創設。社会人協会初代メンバー（東日本支部長・専務理事）として、トップリーグ「Xリーグ」の設立に邁進。2003年、日本社会人協会第2代理事長就任後、活性化のために、国際化や競技レベル向上に尽力し、社会人フットボールの普及・発展に貢献。

【過去の殿堂入り顕彰者】

◎1996年

ポール・ラッシュ

◎2004年（第1回顕彰者）

松本 瀧蔵

小川 徳治

服部 慎吾

安藤 信和

羽間 平安

米田 満

古川 明

篠竹 幹夫

◎2010年（第2回顕彰者）

井上 素行

金澤 好夫

松葉徳三郎

保科 進

吉川 太逸

